

# 学校教育

町内の  
小中学校を  
ご紹介①



☎教育委員会事務局学校教育係 ☎0943-32-0093



## 上広川小学校

図書館教育で文部科学大臣賞を受賞した上広川小学校。塚本校長（写真右）と酒井学校司書（写真左）に具体的な取り組みなど、話を伺いました。



**Q** 図書館教育ではどのような取り組みをしていますか？

**酒井学校司書** 児童一人ひとりが「本を読むことが楽しい」と感じられるような取り組みをしています。例えば「朝の10分間読書」。低学年はたっぷり読み聞かせを行い、高学年になるにつれ一人読みを増やします。読む経験を重ねることで本の楽しさを知り、想像力を働かせながら楽しんで読む児童が育つと考えています。毎年1年生の保護者を対象に「親子読書会」を開いており、「うちどく（家庭読書）」の大切さについてもお話ししています。異学年がペアを組み、互いに読み聞かせする「たてどく」も大切な取り組みです。

**Q** 図書館教育の中で、児童はどう変わりましたか？

**塚本校長** 5年前までは「読む本のジャンルに偏りがある」「読書に集中できない」「図書館に足が向かない」といった児童がどのクラスにもいました。しかし、それらの課題解決に向けた取り組みを進めたことで、図書館の本の貸し出し冊数は年々増え、ジャンルにも広がりが見られるようになりました。朝読書後の授業では、落ち着いた態度で臨む児童の姿がみられます。

**酒井学校司書** 授業に図書館を活用することで必要な情報を探し、読み、まとめる力もついてきたようです。それは長い年月をかけて

つくられた「読み聞かせ」という土台があったからだと思います。

**Q** 図書館教育をほかの教育にどう活かしていますか？

**塚本校長** 読書は語彙力、読解力、想像力を培います。それらはあらゆる学習やコミュニケーションに活かされる力です。本校の図書館教育が高く評価されたことで、教員は自信をもって取り組みを続けることができます。今後も「本はおもしろい」「知らないことがわかった」という感動を、一人でも多くの児童に感じてもらえるような活動をつくっていきます。



低学年の児童への読み聞かせ



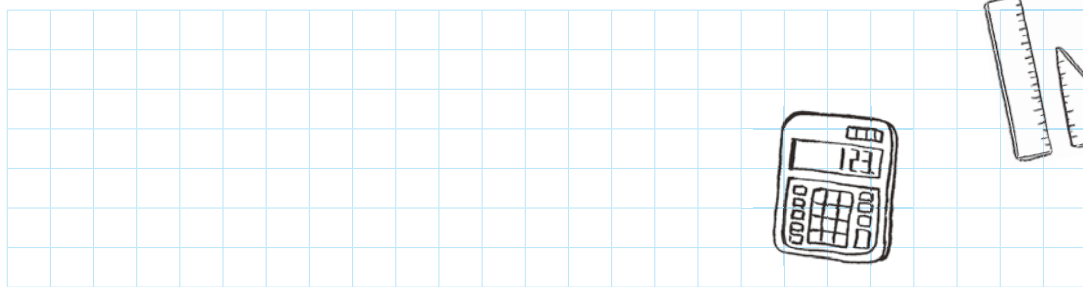
朝の一人読みに集中する児童



図書館で必要な情報を探す児童



図書委員による読み聞かせ（放送）



## 中広川小学校

11月に「児童の学力向上」に関する研究発表会を行う中広川小学校。中村校長（写真右）と高田研究主任（写真左）に具体的な研究内容など、話を伺いました。



**Q** 研究発表会では主にどのようなことを報告しますか？

**中村校長** 「深く学ぶ児童生徒の育成」を目指して、中学校と連携しながら進めてきた研究の成果を公開授業、全体会を通して報告します。この研究は、福岡県が設定した「小・中9年間をつないで取り組む学力向上」という重点課題を解決するために令和元年度から取り組んでいるもので、今年度が最終年度となります。

**Q** 具体的にどのような研究をしていますか？

**中村校長** 小・中学校の教員が一緒に板書や授業の仕方を工夫した

り、9年間で身に付けさせたい学習規律や家庭学習を実践したりできるように、共同の研修会を行っています。

**高田研究主任** 授業では「振り返り」を行うことを徹底しています。それにより、できるようになった自分や学び方を児童一人ひとりがしっかりと自覚することができます。そして、このことが自分に自信をもたせ、次の学びへの意欲につながると考えています。

**Q** この研究を通して、児童はどう変わりましたか？

**中村校長** 昨年度の2学期末に、全学年の児童を対象に行った「生活アンケート」では、「算数の授

業で学習したことがわかるようになった」と答えた児童が、全体の94パーセントでした。「やればできる」と自信をもって取り組む子どもたちが多くみられるようになったと思います。

**高田研究主任** きめ細やかな学習支援を行い、すべての子どもたちが「わかった」「できた」と自分の学びを実感できるよう、今後も努めていきます。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、研究発表会は事前に申し込むことで誰でも参観することが可能です。子どもたちのがんばっている姿を見て、励ましの声をかけていただきたいと思います。



タブレットを使って学習する児童



授業で意見交換する児童



小・中学校教員の合同研修会



自分の学びを振り返る児童